**肝移植について**

肝移植手術とは、病気の肝臓を取り出し、臓器提供者からの肝臓を移植して、肝機能の回復を期待する手術です。

肝臓移植には、生体部分肝臓移植と脳死肝臓移植があります。生体部分肝臓移植は健康な人から提供された肝臓の一部を移植する方法であり、脳死肝臓移植は脳死に至った方の善意によって提供された肝臓の全部または一部を移植する手術です。日本では、2020年12月までに、生体肝臓移植9,760例、脳死肝臓移植655例の手術が行われています。

以下の適応基準を満たす方が肝臓移植の対象となります。

# 肝移植希望患者（レシピエント）の適応基準

1. 病気の原因が肝臓にあり、肝臓移植によって元気に生活できる可能性があること。
2. 従来の治療方法（内科的、外科的、放射線科的）では生命を救うことができない病気であり、その治療が限界であること。
3. 他の主要臓器に大きな障害がないこと。
4. 他の臓器に悪性腫瘍がないこと。
5. 肝臓癌の場合は肝臓内にとどまり、門脈や肝静脈という太い血管への浸潤がないこと。肝臓の外に転移が認められないこと。
6. かゆみなどの症状により、強い苦痛を伴う場合や、度重なる入退院により日常生活が送れない状態である場合。
7. アルコールを含む薬物依存がないこと。
8. アルコール性肝硬変の場合、移植前６ヶ月（脳死肝移植では１８ヶ月）以上禁酒していること、移植後も禁酒できることが条件。
9. 活動性感染症（肺炎、腹膜炎等）がないこと。
10. 本人および家族が手術について十分に理解し、手術後自己管理が可能であること。
11. 手術を受ける方の年齢は施設によって基準があること。

肝細胞癌など、病気の種類によってさらに基準があります。

脳死肝移植では、脳死ドナーが現れ肝臓提供があった場合、病気の重症度、血液型などを考慮して、レシピエント候補が脳死肝移植待機リストの中から選ばれます。

**手術の成績**

疾患・手術前の状態などにより差がありますが、手術後の生存率という形で表しますと、約８割程度です。